

二〇二三年 第一回 広島大本番レベル模試（法、医、

歯、総合科学部） 国語

解答・採点基準

全3問 120分 100点満点

第一問（35点）

〈現代文 田島正樹『文学部という冒険——文脈の自由を求めて』〉

解答

問一 a 収奪 b 痕跡 c 妥協 d 脅威 e 懇願（惓願）

問二 日々の労働で知性も感性も生産に従属させられ疎外された結果、自らの感性や欲望に確信が持てなくなり、余暇に情感を発露しなければ自己確認ができないから。

問三 感性の全体主義的管理

問四 ウ

問五 1 ルサンチマン的聴取者が、野放図な感情の解放の背後に自由な主体性を見て取り、これを否定し抑圧している点。

2 自然の快楽を理解しながらも前文明的な模倣を削除し、支配のために自然を抑圧することで、そもそも対象を理解しない類型と似通ってしまっているから。

問六 それら禁くるタイプ

問七 生きた伝統との直接の連続性を欠いており、古典を現代の文脈に生かすことも、同化や一体化により自然を制御する模倣も拒み、全てを物質化する現代の傾向から保護してくれる滅菌済みの芸術という理想に逃避するから。（二〇〇字）

## 採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という論理関係になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 各1点 計5点

- a 収奪      b 痕跡      c 妥協      d 脅威      e 懇願(悃願)

\* 部分点なし。

問二 5点満点

1. 日々の労働において知性も感性も生産に従属させられ、疎外されている、という内容（**2点**）

- \* 「日々の労働」にあたる語句がなければ、不可。
  - \* 「知性」と「感性」は、「精神や注意力」「知性や欲望」などと書かれていても許容する。
  - \* 「生産への従属」と「疎外」のいずれかに当たる内容が欠けている場合、**1点減点。**
2. 1の結果、自己自身の感性にも欲望にも確信がもてなくなっている、という内容（**1点**）
- \* 「自己自身」に「確信をもてない」ことが説明できていればよい。幅広い表現を許容する。

3. (余暇に) 情念を爆発させることでしか自己確認ができない、という内容（**2点**）

- \* 「情念を爆発」は、「情感を発露」「情念を解放」といった、本文に基づく他の表現でもよい。
- \* 文末が「〜から」「〜ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていなければ、**1点減点。**

問三 3点満点

1. 感性の全体主義的管理

\* 部分点なし。

問四 2点満点

1. ウ

\* 部分点なし。

問五

1 4点満点

1. ルサンチマン型は、野放図な感情の解放の背後に自由な主体性を見て取る、という内容(2点)

\* 「ルサンチマン型」に相当する主語が欠落している場合、1点減点。

2. ルサンチマン型は、自由な主体性を否定し抑圧する、という内容(2点)

\* 「拒否する」「嫌悪する」「脅威として予感する」など、本文に基づく多様な表現を許容する。

\* 文末が「〜点」(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)になっていなければ、1点減点。

2 5点満点

1. 自然(の快樂)を理解している、という内容(1点)

2. 前文明的な模倣を拒否し、自然を支配するために抑圧する、という内容(2点)

\* 「前文明的な模倣」の拒否や削除に触れていない場合、1点減点。

\* 「自然を支配するために」という目的の説明が欠落している場合、1点減点。

3. 1・2の結果、そもそも自然を理解しない者たちに似てしまっている、という内容(2点)

\* 文末が「〜から」「〜ので」(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)になっていなければ、1点減点。

問六 3点満点

1. それら禁くるタイプ

\* 部分点なし。

問七 8点満点

1. 生きた伝統との直接の連続性を欠いている、という内容(2点)

\* 「生きた精神の欠如」という表現でも可。

2. (古典的) 作品を現代の文脈の中に生かそうとしない、という内容(1点)

\* 「生かす文脈を見出し得ない」など、ルサンチマン型ではなく「最後の類型」に当てはまる記述をしている場合、不可。

3. 同化・一体化によって自然を制御する模倣を拒否する、という内容（1点）

\* 単に「模倣」とだけ書いて、「同化・一体化」を説明していなくとも許容する。

4. 滅菌済みの芸術（という理想）、という内容（2点）

5. 4が全てを物質化する現代の傾向から保護してくれるものと考え、そこに逃避する、  
という内容（2点）

\* 「逃避」の語が欠落している場合、1点減点。

\* 文末が「〜から」「〜ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていない  
ければ、1点減点。

\* 解答が一〇〇字以内に収まっていない場合は0点。

## 第二問 (35点)

〈現代文 (小説) 太宰治「黄金風景」〉

### 解答

問一 目下の者であり、かつのろくさいお慶は見下してもよい存在であり、自分がお慶をいじめてもそれは当然のことであるという態度。

問二 自分が地元の有力者の家の出であることを知る人間に現在の窮状を知られたことに対し、落ちぶれたと自分から明言して開き直るような、ふてぶてしい態度。

問三 お巡りに言われるまですっかり忘れていたお慶に対する子ども時代の仕打ちが、言い逃れできない悪行として鮮明に思い出され、いたたまれない気持ちになったということ。

問四 実家から追い出された現在の「私」にとって、かつて自分がいじめた女中に会うことは、相手と自分との立場上の差異が今はなくなっていることを認識させられる機会となり得るから。

問五 のろくさい

問六 1 自分が多方面で困難な状態に陥っている一方で、どんくさいと思って低く見ていたお慶が幸福な家庭を築いているのを目の当たりにして、心の奥底では二人の間の差を実感せざるを得なくなっていたから。

2 「私」はお慶のことをいまだに見下しているため、お慶たちに「負けた」ことを心から肯定しているわけではないが、それを受け入れなければ自分が先に進めないことも理解しており、それゆえ「負けた」ことを認めるように自分自身に言い聞かせることで気持ちを納得させようとしているから。

## 採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「Xという内容(？点)」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**？点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

### 問一 5点満点

1. 「私」がお慶のことを、目下の者であり、かつのろくさい、見下してもよい存在、と認めているという内容(3点)
    - \* 本要素は「目下の者」「のろくさい」「見下してもよい」の三つの小要素によって構成される(同意表現は広く許容)。小要素が抜けている場合、それぞれにつき、**1点減点**。
  2. お慶いびりを、「当然のことである」と思っている(思おうとしている)という内容(2点)
    - \* 「当然のこと」について、傍線部の「天命」をそのまま使っていたり、「使命」「宿命」「運命」とだけ書かれていたりする場合、**1点減点**。
      - (例)「お慶いびりは宿命であるという態度」、**1点減点**(
      - (例)「お慶いびりは天命であり、当然のことであるという態度」、許容)
    - \* 「お慶いびりを」当然のこととして正当化しようとする「などと書いていても可」。
- \* 文末表現については、必ずしも「く態度」になっただけでなくともよい。ただ、**問いのカテゴリーに対応する答えと大きく異なるもの(「くから」など)は、1点減点**。

### 問二 5点満点

1. 自分が地元の有力者の家の出であることを知る人間に現在の窮状を知られた、という内容(2点)
  - \* 「落ちぶれたと自分から明言する、という内容(2点)
2. 落ちぶれたと自分から認める「落ちぶれたと開き直る」、などの表現も可。
  - \* 「落ちぶれたと自分から認める」「落ちぶれたと開き直る」、などの表現も可。
3. ぶてぶてしい、という内容(1点)

\* 文末表現については、必ずしも「〜態度」になっていなくてもよい。ただ、問いのカテゴリーに対応する答えと大きく異なるもの（「〜から」など）は、1点減点。

### 問三 5点満点

1. お慶に対する子ども時代の仕打ちを、お巡りに言われるまで忘れていた、という内容（2点）

\* 本要素は「お慶に対する子ども時代の仕打ち」「お巡りに言われるまで忘れていた」の二つの小要素によって構成される。小要素が抜けている場合、それぞれにつき、1点減点。

2. お慶に対する過去の仕打ちが、言い逃れできない悪行として鮮明に思い出された、という内容（2点）

\* 「鮮明に思い出された」は「（は）っきりと（意識させられた」、などと書いていても可。

3. 「座に耐えかねた」の意として、いたたまれない気持ちになった、という内容（1点）

\* 「座に耐えかねた」とそのまま書いているものは不可。「その場にいることが耐えられなかった」「逃げ出したい気持ちになっていた」、などの表現は可。

\* 文末表現については、必ずしも「〜ということ」になっていなくてもよい。ただ、問いのカテゴリーに対応する答えと大きく異なるもの（「〜から」など）は、1点減点。

### 問四 5点満点

1. 現在の「私」が、実家から追い出された身の上である、という内容（2点）

\* 「実家から追い出された」は「窮乏状態に陥っている」「零落している」、などと書いて「〜」でも可。

2. お慶は、かつて自分がいじめた女中である、という内容（1点）

\* 「かつて自分がいじめた」は「かつて自分が見下していた」、などと書いていても可。

\* お慶は「過去の仕打ちを恨んでいるかもしれない」、などと書いていても可。

3. お慶に会うことで、相手と自分との立場上の差異が今はなくなっていることを認識させられる、という内容（2点）

\* 文末が「〜から」「〜ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていないければ、1点減点。

### 問五 3点満点

のろくさい

\* 部分点なし。

### 問六

1 6点満点

1. 「私」が(多方面で)窮乏状態に陥っている、という内容(2点)

\* 「(多方面で)窮乏状態」は、具体的にどのような困窮かまでは答えなくてもよい。答えてきた場合、健康面・経済面・精神面のどれかであれば広く許容。「病苦」「生活苦」「精神的な疲弊」、などの表現も可。

2. どんくさいと思って低く見ていた女中(＝お慶)は幸福な家庭を築いている、という内容(2点)

\* 「どんくさいと思って」はなくても可。

\* 「幸福な家庭を築いている」は「品の良い奥さんになっている」、などの表現も可。

3. 心の奥底では(「私」とお慶との現在の)差を実感せざるを得ない、という内容(2点)

\* 文末が「〜から」〜「〜」ので(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)になっていないければ、1点減点。

2. 6点満点

1. 「私」はお慶をいまだに見下している、という内容(1点)

2. お慶(たち)に「負けた」ことを心から認めているわけではない、という内容(1点)

\* 「心から認めている」は「積極的に肯定している」「心から受け入れている」、などの表現も可。

3. お慶(たち)に「負けた」ことを、受け入れなければ自分が先に進めないことを「私」は理解している、という内容(2点)

\* 「自分が先に進めない」は「自分には先がない」、などの表現も可。

4. 「負けた」ことを認めるように、自分自身に言い聞かせることで気持ちを納得させようとしている、という内容(2点)

\* 文末が「〜から」〜「〜」ので(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)になっていないければ、1点減点。



### 第三問 (30点)

〈現代文 (随筆) 佐藤雅彦「葉と山椒魚」〉

#### 解答

問一 男性の本から落ちた葉を拾って本に戻すため。

問二 葉を拾おうと拾うまいと何かが大きく変わることはないから。

問三 誰も知る由もないことに遭遇すること。

問四 同じ発話文であっても、強調したい内容である波線部Bは鉤括弧で括り、特に強調する必要のない内容である波線部Aは地の文として書いている。

問五 有り難さ(有り難い)(四字)

問六 世の中に変化を与えず誰も知る由もない有り難い行為を私だけが目撃したということ。  
(三十九字)

## 採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という**論理関係**になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

### 問一 4点満点

1. 葉を拾う、という内容（**2点**）
  2. 本に戻す、という内容（**2点**）
- \* 文末が「～ため」「～から」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていないければ、**1点減点。**

### 問二 4点満点

1. 葉を拾って戻すという行為が世界に変化を与えない、という内容（**4点**）
- \* 「葉を拾っても拾わなくても誰にも影響を与えない」など、多様な表現を許容する。
  - \* 「葉を拾って戻すという女性の振る舞いを誰も知る由がない」などの表現も可。
  - \* 文末が「～ため」「～から」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていないければ、**1点減点。**

### 問三 4点満点

1. 誰も知る由もないこと、という内容（**3点**）
  2. 1に遭遇する、という内容（**1点**）
- \* 「気づかない」「感知しえない」「未知」など、類似表現でも可。
  - \* 多様な表現を許容する。

問四 7点満点

1. 鉤括弧の有無、という内容 (2点)
2. 波線部Aの内容は強調する必要がない、という内容 (2点)
3. 波線部Bの内容は強調する必要がある、という内容 (3点)

問五 4点満点

有り難さ (有り難い)

\* 部分点なし。

問六 7点満点

1. (葉を戻す行為が) 世の中に変化を与えない、という内容 (1点)
2. (葉を戻す行為が) 誰も知る由もない、という内容 (1点)
3. (葉を戻す行為が) 有り難い、という内容 (2点)  
\* 「奇特」「稀少」の場合、1点減点。
4. 1・2・3の行為を私だけが目撃した、という内容 (3点)  
\* 「私だけが」がなければ、2点減点。

5. 解答が四〇字以内に収まっていない場合は0点。